

六甲道駅周辺整備状況視察

鈴蘭台駅周辺整備を考えるにあたり、事例研究の一つとしてJR六甲道駅周辺の整備状況の視察を、5月24日会長以下10数名で行いましたので、ご報告いたします。

1 再開発事業実施前の地区の状況

六甲道は、神戸市東部の住宅地として急速に発展し、周辺の宮前市場や八幡商店街が賑わう活気あるまちでした。

しかし、この地区は戦災からまぬがれたために、かえって公共施設の整備が遅れ、住宅地は昔のままの木造住宅が密集しており都市環境の良好な地区とはいえない状態でした。特に、南北交通の幹線道路である八幡線とJRとは平面交差となっており、踏切は1日のうち16時間も閉鎖されている状況で交通をマヒさせるとともに駅の南北地区を2つに分断し、地区の発展を阻害していました。

☆六甲道駅前北側再開発実施前



2 整備方針

神戸市では、JR六甲道駅周辺を東部副都心の中心核と位置づけこれらの諸問題を解決するために、JR住吉駅から東灘貨物駅間の高架化を図るとともに、駅南北の約3haの区域について、ターミナル機能の充実・商店街の整備近代化・住環境の整備の3つを柱とし、人工地盤による南北地区の一体化や都市施設の整備を、再開発事業により進めることになりました。

☆六甲道駅再開発計画図



☆六甲道駅前北側再開発完了後



3 整備状況

昭和44年にJR六甲道駅南北両地区について、市街地改造事業（現在の再開発事業）の都市計画決定が行われました。

(1) 駅南地区

JRの高架化工事・新駅舎建設工事に並行して、最初に駅南地区の市街地改造事業が進められました。